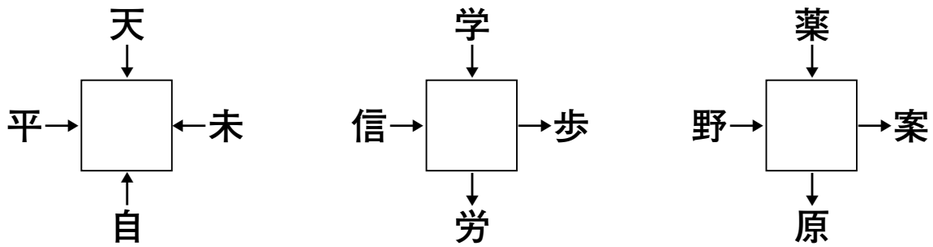
みんなの広場
MINNANO HIROBA

親子クイズ 469

Q 矢印の方向に二字熟語ができるよう□に漢字を入れてください。
□に入る３つの漢字を使ってできる言葉を、ひらがなで答えてください。
＊ヒント…答えは６文字



【第468回解答】
②サクラ

【第468回当選者】
黒木　秀子（後免町）
中村　　鈴（浜改田）
濵口　謙一（浜改田）
十河いつき（大埇甲）
岡田美佐子（立　田）

★応募総数／16通　★正 解 率／94％

■応募締切／６月13日㈪必着
■あ て 先／〒７８３－８５０１
南国市大埇甲２３０１
南国市企画課「親子クイズ」係
■賞　　品／正解者の中から抽選で、５名に
図書カード（1,000円）を贈呈

親子クイズは、広報委員が毎月順番に考えています。

こころ ふれあい つながって 8 人権学習シリーズ

災害を通じて学ぶもの

３月11日、東日本が地震と津波によって、大きな被害を受けました。震災後、支援の輪は、日本のみならず世界中に広がっています。

勤務先の保育所は海に近く、園児たちが津波という言葉を身近に感じ、自分たちの生活と重ねている様子を見て、今回の災害の話をすることにしました。地震の話や、避難する時の話を真剣に聞く幼顔に「どうかこの子たちが震災の被害に遭わないように」と願うと同時に、被災地で過酷な避難生活をしている子どもたちを思うと本当に心が痛みました。

話を終えた後、子どもたちから「話をしてくれてありがとう」という言葉が返ってきました。幼くても震災を身近に感じ、理解しようとする心が言わせた言葉ではないでしょうか。

震災から一週間たったころ、姉妹都市である岩沼市に市役所から物資を運ぶという話がありました。

大人のように義援金や物資を送る事はできなくても、避難をしている人を思う園児たちの優しさを、一緒に届けてもらう事にしました。そこで、被災地の体育館に張ってもらおうと模造紙に折り紙を張り、言葉を添えました。

４歳児に何を作るか聞くと、春が来るようにチューリップを折ると答え、がれきの町がチューリップで彩られるように願いを込めて、さっそく職員と一緒に作りました。

５歳児は最後まで何を作るか言わずに自分たちだけで話し合っていました。やっと決まり作りだした物は、模造紙いっぱいになるようにひとりがいくつも折った、ピンクや赤の折り紙のハートでした。園児に「なんでハート?」と聞くと、「みんなの心やろハートは」と温かい言葉で答え、かわいい字で心からのメッセージも添えました。

被災地の方々が、一日も早く落ち着いた生活が取り戻せる事を願い、亡くなられた方々のご冥福を心からお祈り申し上げます。

※お問い合わせは
人権啓発広報委員会

にこにこライフ 131

何事もプラス思考で

堀内（ほりうち）　昭五郎（しょうごろう）さん（緑ヶ丘）

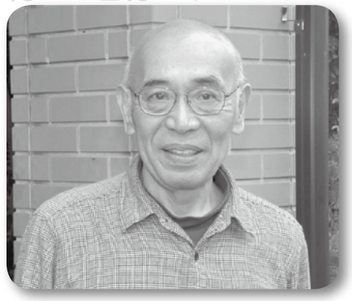
妻と娘夫婦、孫の５人家族です。料理が得意で、孫もおいしいと言ってくれます。特に酢豚などの中華料理が得意です。ひょっとしたら、腕前は妻より上かもしれません（笑）。

高知市浦戸の出身で、浦戸城などの地元の歴史に興味があり、長宗我部顕彰会の副会長をしています。会報へ寄稿もしているのですが、自分の勉強にもなるのでいいですね。

身体的な老いはしょうがないですが、精神的には若々しくありたいと思っています。脳を活性化し、何事もプラス思考で考えるのが大事だと思います。

とても80歳には見えなかった堀内さん。若さの秘訣と人生訓をたくさん語っていただき、勉強になりました。

何でも自分でやってみる



井上（いのうえ）　俊彦（としひこ）さん（駅前町）

県内のいくつかの病院に勤務した後に、地元で整骨院を開業して38年になります。体を動かすことが好きで運動は何でもしましたが、中でも柔道には縁が深く、学生時代からずっと関わっています。今年で44回目を迎える高知県南国柔道大会の運営にも携わり、救護係で試合中に脱臼した選手の応急手当を行ったこともあります。

何でも自分でやってみるという性分で、趣味の写真も現像まで自分でしていました。デジタルカメラの時代になった今も、撮った写真をプリンターからプリントアウトしています。

「民生委員の取り組みで独居高齢者の見守り活動をやりたい」と話す井上さん。私はその積極性を見習いたいです。

フライト・プラン障害者コーナー⑨ ～共生社会を目指して～

自分が暮らしていく場所がどこであるのかは、生活をしていく上で重要な要素となります。自分の望んだ場所で暮らしていくことができれば、生活の質の向上にもつながります。障害のある方の意見としては、今後暮らしたい場所として「持ち家」と答えられた方が多数となっています。また、「公営住宅」や「障害者が入居できる住宅や施設」といった意見もありました。在宅生活を送る上での支援を行うとともに、障害のある方が希望する住宅や施設に、スムーズに入居できるような体制を整備していく必要があると考えられます。

このコーナーでは、平成22年度からの５年計画である「新なんこくフライト・プラン～第２次南国市障害者基本計画～」を策定する際に障害のある方を対象に行ったアンケート調査の結果を、全９回にわたり紹介してきました。これらを通して少しでも障害のある方への理解を深めていただけたら幸いです。

今後も、広報紙などを通して、積極的に障害福祉の啓発や情報提供をしていきたいと考えていますので、皆さまのご理解・ご協力をお願いいたします。

質問項目　「今後、どこで暮らしていきたいですか？」	人数	割合
①持ち家	966	66.4%
②公営住宅	127	8.7%
③グループホーム、ケアホーム、福祉ホーム（障害者などが入居できる集合住宅）	96	6.6%
④近くの入所施設	89	6.1%
⑤（遠くても）気に入った入所施設	73	5.0%
⑥アパート	48	3.3%
その他	55	3.8%

＊「障害福祉に関するアンケート調査」集計結果

※お問い合わせは、福祉事務所社会係（☎８８０－６５６６）まで